

アタゴオルは猫の森

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest

16

MFコミックス
フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 16

ますむら・ひろし

MFコミックス
MEDIA FACTORY

9784840133807
1929979005146
ISBN978-4-8401-3380-7
C9979 ¥514E
定価：本体514円（税別）
雑誌52649-80
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY

魚屋の買い物や
飲み屋のツケなど
借金は年を越したら
帳消しになるのが
アタゴオルの流儀。
そこで年末になると勃発するのが、
借金取りたて屋とヒデヨシの熾烈な攻防。
とうとう今年は、城を築き立て篭もった
ヒデヨシたちに対し
戦車による実力行使が始まった！
『取りたて戦記』
はじめとする
ヒデヨシの活躍8篇を
お届けします。



アタゴオルは猫の森 16

ATAGOAL is Cat's Forest

ますむら・ひろし

MFコミックス
フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 16

ISBN978-4-8401-3380-7
C9979 ¥514E
9784840133807
1929979005146
定価：本体514円（税別）
雑誌52649-80
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY



魚屋の買い物や
飲み屋のツケなど
借金は年を越したら
帳消しになるのが
アタゴオルの流儀。
そこで年末になると勃発するのが、
借金取りたて屋とヒデヨシの熾烈な攻防。
とうとう今年は、城を築き立て篭もった
ヒデヨシたちに対し
戦車による実力行使が始まった！
『取りたて戦記』
はじめとする
ヒデヨシの活躍8篇を
お届けします。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。

心の安らぎと癒しの世界アタゴオル

醜い戦争はないが、見苦しい戦争はある！



はたしてヒデヨシは借金から逃れられるか!?

ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY



101031 アタゴオルは猫の森⑯

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 16

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 16

ATAGOAL is Cat's Forest

第一話　緑ノ視線




落ち葉の季節ですなあ
木の葉が落ちて
まるで網の目だね
しかし枝ぶりは
同じようでずいぶん違いますな
この木は…「カンチ」ですか



いや
カンチに似てるけど
アタゴオル独特の木
「パラモニ」と
いいます
パラモニ
アタゴオルの
森は深いから
この地にしか
生えていない
変な木が多いん
です
へーーっ
そういえば
オイラ
見ましたよ
変な木!!
変な木
ホラ
この木
ですよ
この木のどこが
変なんだい?
枝ですよ
枝見てて下さい


枝？
ポキッ
コッ
フーラ
フーラ
おーーっ
おおっ なんですかアレ!! 枝が自分で折れてますぞ
これもこの地にしか生えてない「エダオトシ」という木です
エダオトシ!!
ああ 冬が近づくと小枝をパラパラと自ら落とすんだ


でも途中の枝に当たるとねあんな風に
フラフラゆれてるんだよ
まったく変な木だねえ
ん
なにやってんだアイツ
変装してるつもりだろう
そーか…雪待月だもんな
借金取りに追われる季節ですね
ヨネザアドのガッポリ商会がやってくる頃か



こちらはガッポリ商会です
ヒデヨシーーッ
らっ
なんでオレだって判んだよォ
変装してんのに
なにが変装だよ目立つだけだぞ
借金取りもう来たのか
来たのよーっもー家には帰れないのだ
だから変装してんのよ
そんなことしてもムダだよ
仮面はどうでしょう
仮面!!


ええっ
仮面屋ができたんです
ホラ
ここです
こんっわー
わおーっ
オレの好みだわ〜〜っ
く〜〜っ
迷っちゃうなーっ
どれに
しよーっ


いらっしゃいませ お安くしときますぜ
新しいのや古くさいのがあるね
新しいのはオレが彫ったのさ
古いのはあちこちから集めたんだ
おくっ これいいなー
それは2銀貨ですぜ 古いものですから
オレ 金持ってないから物々交換してくれる?
え?
これと


あっ
巻波水晶
凄い
どこで
見つけたんだ？
フエフエ
秘密だよん
これなら
みんな
一個ずつ
かぶって
いいぜ
わー
ホッホッ
えへへ
なかなか
おかしな
気分だなぁ
まったく
ですねえ


おっ
んっ
どこのバカだ
へへ
ハナブンめ気づかないわ
しかし家には帰れないし…
テンプラやパンツんちじゃすぐバレるし
参ったなあ
にゃ？


うんせ
うんせ
なにやってんだ?
わっ
物け物
コラッ こっちに来んなっ
オレだよ
あっ ヒデヨシ
なに作ってんのさ?
家だよ
家!?



冬になるたびカマクラで暮らすの寒いからさ
よーしオレも手つだうわ
だから住まわせてくれいっ
ドラネコ団しか住めないのだ
入るっドラネコ団に入るから住まわせてくれーっ
どうしたんだおまえ？
親分きっと借金取りのせいですよ
そーか
おまえ年末になるといつも追われてんもんな
そーなのよ
かくまってくれーっ


よーし いいだろう せっせと働けよっ
うんせ こらせ
よーし その調子
ほこっ
ほっ
カツラは散歩の時間だよ
ほこほこ
ほっほっ
こらーっ カツラ さぼんな〜〜っ
へへっ


あれっ
カツラ君だ
ほこ
ほこ
なんでヒデヨシ君の仮面かぶってんだろ
ほっ
ほっ
エダオトシの木だ
ほーっほっほっ
ほーこほこ
ほっ
ごっ


あっ
ほっ
ほこ
いい感じ
オーイ なに作ってんだぁ
ドラネコ団の家だよ
おまえたちも手つだってくれ
いいけど… おまえ仮面どうした？


カツラがかぶって散歩にいったのよ
んっ
やーっ
みなさん大変です
早くエダオトシの木に来て下さい
えっどうかしたのかい？
カツラ君が!!
カツラ？カツラがどうかしたのかい？
早く早く


カツラーッ
いたぞ
カツラ どうしたっ
仮面ぬけなくなったんかい？
葉っぱ？
葉っぱがどうかしたのか？
あのね
ちがうよ
葉っぱだよ


パチッ
パチッ
シューーッ
あっ
赤くなった
紅葉か
仮面が
輝いてるぞ
持つと
赤くなるのよ
あれ
その仮面…
エダオトシの
木から作って
あるぞ
えっ


ホントだ
ということは
ああ たぶん
誰かが昔
この木を削って
彫ったんだな
うへへ
ヒデヨシ
なんか
見えるの
かい？
別に
フーン
ポキッ
パチッ
コッ
コッ
んっ
！



オレの型の
枝が踊ってる




ヒデヨシの型？
んっ
なにか持ってるぞ
ホントだ テンプラとヒデヨシ
これは
魚水晶を今年の夏見つけた時だぞ
オーーーッ 水晶谷で見つけて踊りながら帰ってきたのよ
楽しかったなあ
パッ
ビッ
トッ
コッ
あっ


これは夏の大食い比べ大会
ええ
ヒデヨシ組をやぶって優勝しましたっ
今年 最高にうれしかったぜ
らっパンツだ
これ春に「ツルマキと月の関係」を見つけた時だ
最高の気分だったなあ……
最高の…
もしかしたらこの木は…
ああこの木
森の民が今年一番


喜んだ瞬間を知ってるんだ

第二話　取りたて戦記（前編）




カマクラとちがって
家はやっぱり暖かいなーっ
う〜っ
落ちつけよヒデヨシ
借金取りたて屋のガッポリ商会がそろそろ来るのよォ
まずいのよ〜っ
アイツら凶暴だから
ここを発見したら家ぶっ壊しますぜ



奴らが来たらヒデヨシにはここを出てってもらう約束だからな
そんなーっ
子分のオレを見捨てるのかよォ
たのむっ助けてくれーっ
無理だよアイツら強すぎる
助けてやる
おおっカツラ偉い
ダメだよ家壊されるんだぞ
親分コッチだよ
カツラ


どこまで行くんだよ
も少し
この穴の中に…
あった
なんだコレ?
ツキミ姫が作ったよ
ツキミ姫が?
月の印があるぜ
いつ作ったんだ?
きのうの冬


きのうの冬？
カツラ語さ
去年の冬ってことさ
すごいよ
凄い？
シューッ
フーム雪かき器械か
これは便利です
ちがうよ
おっ


あれれ
コン
カチコチだぞ
コン
しかもふくらんでいきますぜ
雪がふくらし粉みたいになるのかよーっ
これかぶれ
んっ
にゃにゃ
と いうわけで
使わせてもらったのよーっ
別にいいけど



今年もあと2日だなあ
そーよあと2日逃げまわれば
今年の借金も帳消しよっ
今年もあちこちで借金ためたんだろ
金無いんだから売る方も売る方だな
そーして払わない者のために恐怖の取りたて屋ガッポリ商会が来るのですなあ
今年は来ませんねえ
来なくていいわよ
ドーン
来たよ


来た!?
おーい
家の形があるうちに借金払った方がいいですぜ
はっ払いますっ
すいません許して下さい
おとなしく出しゃあイイんだよ
よーし次は?
まだまだありますが一番しぶといヒデヨシはどうします?
あいつは絶対取る
いえーっ
ドス
ドス


あっヒデヨシ
よっ ガッポリちゃん
お金は ぜんぜん あーりません
新年が来れば 借金はチャラ なのさっ
逃げまくるわ よ〜〜〜っ
くっすおう
野郎 追えっ
ほっ
ボッ
へっへっ もう少し
うっ


オーッ
なんだ
これはっ
開門なのよー
来たな





うひゃー
なんでこんなにでかいものを
どえらいお城だな
ワハハッ悪徳取りたて屋め
おまえなんかに払う金はねーわよっ
やかましい
ガッポリ商会がこんな城にびびると思うのか
ダシアレ弾ぶち込め
へい
ドン


わっ
あっ
壊れない
ほほほ
ツキミ姫の器械で
作ったんだぞーっ
ドラネコ城は
不死身なのすあっ
ホーレ
帰れ帰れい
うわっ
くそっ
撤退だ
よーーしっ
本部に通信しろ
わーーいっ
大勝利だわーっ


本部に通信？
翌日
波風かわら版だよ〜〜っ
ガッポリ商会の借金取りに追われたヒデヨシがお城を建てたよーっ
あーっ いくら借金払わないからって…
ああっ やりすぎだ
ヒデヨシの家壊されても感じないのに
他の者の家だと気の毒だなあ
くーっ
金なんて無いんだよーっ
てめ〜っ 逃がすものかっ
追えっ


助けてくれー
オレも助けてーっ
ガッポリ商会に追われてんだ
ありゃみんな逃げて来るぞ
よーし門を開けて受け入れましょーっ
ああ助かった
ここにいれば安心よ
そーでもないぞ
ありゃテンプラそーでもないってなんなのさ？
西の雪原を見なよ
西の雪原？
オーイ
なんだツキミ姫じゃないか
んっ


ボ
ボ
ボ
にゃ〜〜っ
戦車だ
なんで取りたて屋が戦車持ってんだ
すごっ
ヒデヨシ君 支度の用意出来ましたよ
おっ
出来たか


支度ってなんだ?
ヒデ丸が葉っぱ草でなにか作ってたぞ
やあ
おーす
やあ ツキミ姫に ハナブン
取材にきたぜ
ハーイ そこに籠城している諸君
ガッポリ商会に戦車まで出動させるとは たいしたもんだ
おとなしく借金を返せば許してやろう…と思ったが
この城は粉々に破壊してやる
聞いてんのかヒデヨシ
うっ


戦車が怖くて借金できるかよ
なんだ貴様その恰好っ
あいつ兜に変な文字つけてますぜ
「愛」の一字なり
なにが「愛」だっ借金だらけが


この兜をかぶると
どんな罵声も谷川のせせらぎに聞こえる
それはワシの腹の中が
愛でいっぱいだからじゃ
銭々とうるさいおまえたちに今
ワシの愛を授けよう
やかましい
ガッ
愛の印がぶっ壊れた
いーかバカモノ
うちの戦車の威力を見せてやる
がっ
……


あれっ
あの戦車
どこを
狙ってんだ?
むっ
あっ
巨木「パンコ」が
!
へへっ
んっ


貴方たち
なんのために
あの木を
倒した？
なに怒ってんだよ
ねーちゃん
木なんて
こんな所にゃ
山ほどあるぜ
何千年も
生きていた
ものを!!
反省しなさい
ガンポン・プル
うっ
おまえ…
どうして
オレの
本名を!?
貴方の
心の中に
書いてあります
なんだと…
気味の悪い
娘だっ


あの木がどれほどの時間を生きていたのか
想像しなさい
ヤカマシイ
おまえは学校の先生かっ
砲撃開始しろっ
了解
ドン
ズドド
ごわっ


おわっ
グッ
ガッ
ズドッ
だめだ
凄い破壊力だ
いくら堅いったって
氷の城じゃ
もたないな
にゃっ
うわっ
なんだよあれ
ブゴゴゴ
戦車が
あんなにっ
ガッポリ商会の
取りたて軍隊だぜ
砲撃
続けろ
あっ
くっそお
こーなったら
も〜〜〜っ


私を守って

第三話　取りたて戦記（後編）




よろしい
守ってやりましょう
ごろごろごろ
みっともないなあ
喉鳴らしてるぞ
ガンガン撃ちまくれっ
うわっ
まるでぶっかき氷だ
これじゃもたないな



カツラ君 私の作った器械はどこ？
こっち
このやろ くらえっ
オワッ
んっ
なにすんのかな
ブルルル
スルル
スル
ゴッ


ブルルル
あっ
ツキミ姫
ゴッ
冠タコを
集中して
狙えっ
なぬ？
ガッ
ゴッ


らっ
どうしたんだ？
砲弾が効かないぞ
オホホッ
いい感じよっ
やーい ガンポン
おまえの
ヒョロヒョロ玉なんか
効かないのさーっ
くっそう
撃てっ
気合を
込めろっ



だめだっ
くっ…いったいどうなってんだ
どーだっ借金取りの悪党どもっ
イカタコ城は堅いのさっ
ヒデ丸っあと何時間だ?
新年が来るまで5時間を切りました
ようガンポンあと5時間で借金はチャラだぜ
それまでゴムマリみたいな玉撃ってなさい
くっすおう
ゴゴッ
うっ


ずいぶん手を焼いてるな
ゴゴ
あっ バザラ様
なんだっ変な爺が戦車に乗ってるぞ
我が商会の戦車団まで投入しても……
ずいぶんしぶとい奴らよのう
すいません
ひさしぶりにワシも
力を出してみるか
えっ⁉
恐縮です



ぶ
うっ
モコ
モコッ
あっ
雪の猫がっ
サコ
サッ
サコッ
わさわさ来るぞ
んなもんぶっ飛ばすのよっ
ボフッ
あっ



えっへん
どーですぅ
らっ
元にもどってくっ
わっ
登ってくるぞっ
なんだ
あの煙?
あっ


溶けてますよっ
氷の壁を登ってるうちに溶けるとは
この城なんか妙だぞ
わはははっ
雪猫は溶けちゃうし砲弾は効かないし最高よっ
腹減ったから弁当でも食うべ
弁当
オレにもくれっ
よろしい
1個あげましゅ
しかし変だよなあ
どうして砲弾が効かなくなったんだ?
ああ
あっ
お待ちかねーっ
んっ
どうした?
うっ


これは!!
氷が急に硬くなったのも雪猫が溶けたのも
ツキミ姫の力か
凄い能力だなあ
ハイハイ弁当の時間でえす
らっ
ツキミ姫クモの巣張ってるぞ
クモの巣じゃないよ



ツキミ姫がこうやっているから戦車の弾丸も効かないし雪猫も溶けたんだ
そっか
あんがとねっ
新年が来るまでがんばってけろっ
ガツガツ
んめ〜っ
ハア
トッ
パチッ
パチッ
!
ガッ
ガッ



あれっ
ツキミ姫どうした？
やる気が
切れました
なぬ!!
がんばってよ〜っ
ホラーッ
弁当やるからよ
私帰ります
えーっ
弁当2つやるから守ってけろーっ
この弁当もーらいっ
あっつう
も〜っ
どーなってんのよツキミ姫


あたり前だろう
ツキミ姫ががんばってるそばでガツガツ弁当なんか食うからだよ
う〜っ
!
城から妙な気配が消えた…
ようし砲撃してみろ
えっ!?
判りました
ドン
ガッ
あっ吹き飛んだっ
ようし集中砲火だ


ドドド
のわわっ
氷が割れまくってるぞーっ
ツキミ姫の力が消えたからだ
くぬぬっ こーなったら逃げまくるわよっ
オレは天守閣に転進するぜい
諸君は持ち場を離れずにねっ
ドスドス
仲間より弁当が大事かよ


天守閣
それっ
天守閣
あっ
ゴゴゴ
登って来たっ
ひえ〜っ
もうダメだっ
お許しを
天守閣に
逃げたぜ
新年まで
あと2時間
ですよっ
くっ
ようし
天守閣に
行けっ
ザコは
どうでも
いい
ヒデヨシを
捜すんだ
奴はどこだっ


ガガッ
どうだ ヒデヨシ
ズガガッ
ドン
ドッ
降参して早く出てこないと 天守閣がくずれるぜ
ツキミ姫がいれば持ちこたえたな
ああ…でも どうして急に帰ったのかな
そりゃあ一生懸命やってるそばでガツガツ弁当なんか食ったからだろう
そんなことで帰るかな?
あいつのいやしさなんて今に始まったことじゃないぜ
そういえばそうだよな
…フーム…


ツキミ姫は なにかを見て やる気を 失くした…
なにを見たんだ…？
!!
ガンポン様 これじゃあアイツが 死んでしまいます
やかましいっ あんな奴 くたばる わけがない
撃ち 続けろっ
さすがの ヒデヨシも ホントに だいじょぶかよ
死ぬぞ
ぷっ
甘いよなあ
ドドド



オレが「天守[redacted]に行く」って言ったらよ
ホントに行くわけねーべよ
ズ
ズ
あーーっ
ヒデヨシくーーーん
くずれた…
くーっ
捜せっ
どっかに埋まってるぞっ
おーい ヒデヨシーーッ
どこだーっ
んっ


なんか聞こえる
えっ
にっちゃくっちゃ
にっちゃくっちゃ
酢ダコ弁当はんめえなあ
ミミッ
うへへっもうすぐ12時だ
酢ダコはんまいか?
げっ
パンツ
オレにも1つ食わせろ
わっダメッそれは焼きウドンの


うっ
金貨だ
どうしたんだ こんなに!!
貯めたのさ
貯めた!?
何年もかけてな
そういえば おまえ…
ときどき 貴重な植物 どこかから 見つけては
薬草屋に高ーく 売りつけてるもんな
こんなに持ってんなら 借金払えよ
ほほほ
お断り


そうか
ツキミ姫は
これが見えて
嫌気が
さしたんだ
返せっ
コツコツ
貯めたんだ
誰にも
渡さないわよっ
おいっ
うぐっ
その弁当箱
こっちに渡せっ
むっ無念


ミッ
ミッ
うっ
みゃおろろ
わーい新年だっ
おめでとーっ
やった借金チャラだっ
新年バンザーイ
借金消えたっ
逃げまくりバンザーイ
いえ〜っ
くっすお〜っ
ゴッ
わっ


ヒデヨシ君から
お年玉ーっ

第四話　NANAO



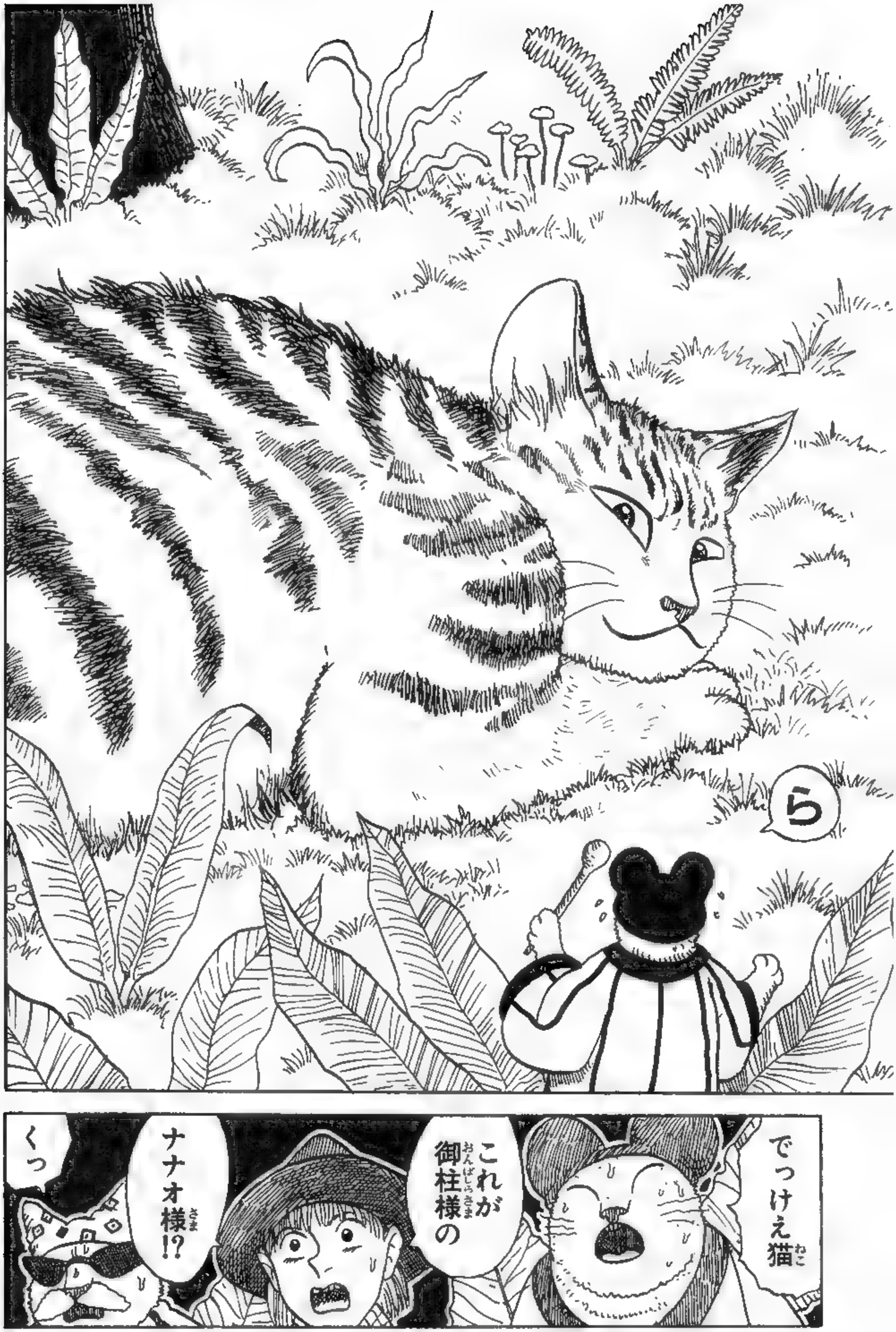

甘酒の海
泳ぎましゅっ
すいすい
ガブガブ
べーろべろ
聞きしに
まさる
タワケぶり
御柱様も
興味を持つで
あろう
御柱様を
連れ歩くだけで
紅マグロ1匹!?
だろ!!
ようし
合格じゃ


そーよっ 楽勝なのよっ
御柱様ってなんだ？
森の守り神とかいわれている猫らしいぜ
なかなか言うこと聞かないんだってよ
オレが聞かせます
2日後
ポン
ポン
うくくっ 船はノロノロ おそいよなあ
もうすぐ ワシらの森です
おっ


村長 連れて 来ますた
紅マグロ よろしくっ
御柱様 通称「ナナオ様」と お呼びしている方を
「森出し」して 日沈までに「葉ノ宮」へ お連れしてもらいたい
ナナオ様 だとーっ
葉ノ宮？
そうじゃ これは 村の祭りごと でな
豊作祈願の 行事だなす
日が沈むまでに 葉ノ宮さ 行けたら 今年は豊作に なんのさ



よろしい豊作にしてやるぜい
ボン
ナナオさま〜〜〜っ
お迎えにきたのよー
ボン
ボン
ボン
どーこーいるのかなーっ
しかしナナオ様ってどんな奴なんだろ
ここらは神聖な領域だから
ナナオ様しか住んでいないんだとさ
ボン
んっ
あれか？


ら
でっけえ猫
これが御柱様の
ナナオ様!?
くっ


いえーっ
ナナオちゃん
オレは
ヒデヨシよーっ
ドーン
ドボーン
こんな
巨大な猫を
連れ回す
なんて…
紅マグロ1匹
でも大変だぜ
やるわよっ
連れ回すのよっ
らっ
シャーッ
やばいぞ
ヒデヨシ
もっと
離れろ


なんだ
コイツ
しゃべれ
ないのかよっ
原始猫って
やつかも
原始猫!!
パンツが
言ってたぜ
密林に住んでる
可能性はあるって
おっ
ついて来た
よーし
コッチよ
コッチ
ボ
ボ
ふふ


ボン
いい感じだぞ
ボン
ボン
ホレホレはいはい
よ〜〜っハナブン「葉ノ宮」ってどこにあるんだ?
地図だと…まっすぐだな
あれっ
おお御柱様が「森出し」なさっておる
すばらしい
ボン
とっとことっとこナナオちゃーん
おーいヒデヨシ

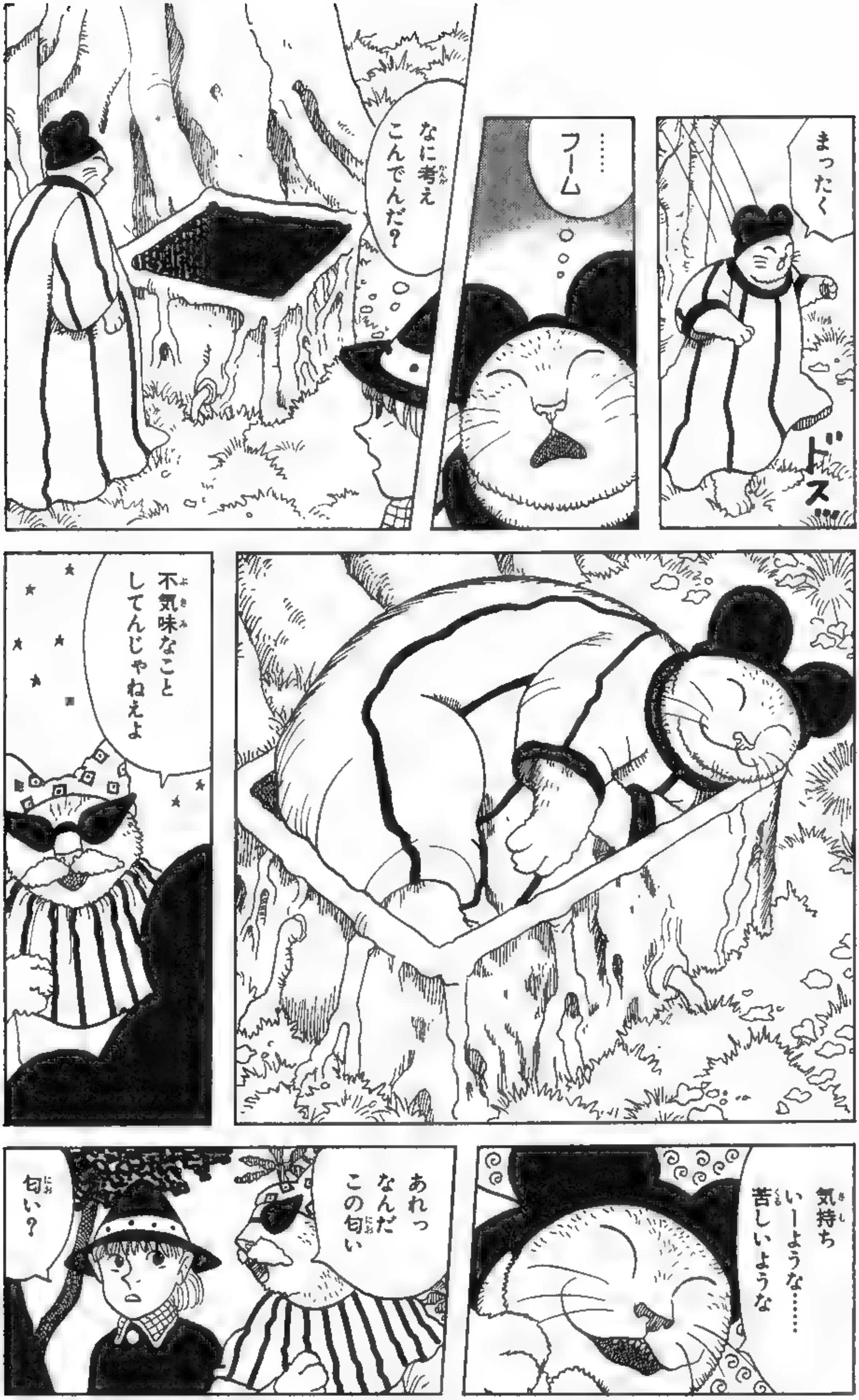

らっ
ちょっと〜っ
おまえ——っ
なに座ってんのよっ
いい!!
おまえは
オレと
葉ノ宮
つーとこへ
行くのっ
そーすると
オレは紅マグロが
もらえるわけ
判った?
だからーっ
陽が沈む前に
行くんだよォ


う
くっ
こんのやろ
よ〜〜くっ テンプラ なんか いい手は ないかよォ
こういう猫は 子猫みたいなもんだから アレをやってみれば?
アレ?
バチッ


サコ
サコ
ジャレなさーい
赤ん坊や子供ならひっかかるけど
こいつは巨大な奴だぞ
ああ見てるだけだな
おっ
かかった


そら
そらっ
よーし
ヒデヨシ
その先を
左に曲がれっ
なかなか
やりおるのう
ん
なんだ
この木は？
根っこが箱の型をする木
ハコネだよ
くん
くん
らっ


こらーっ
パ
ムリヤリ入るんじゃない
箱なんかに入ってなにが楽しんだあ
ナナオ聞いてんのかよぅ
ガッ
ギュー


まったく
ドス…
……フーム
なに考えこんでんだ？
不気味なことしてんじゃねえよ
気持ちいーような……苦しいような
あれっ なんだ この匂い
匂い？



フーム
こん中からするぜ
凄い鼻だなあの男
ナナオ様への貢ぎ物としてねかせておいたのに…
なにが匂うんだ
なーんも匂わんぞ
オレはハナブンだぜ普通の奴より嗅覚が鋭いのさ
ホラね
タコだ
あっ
この匂い!!


マタタビ酒に漬けてある
んめっ
メチャメチャんめえよォ
ニャフッ
んぐっ
んまいわよォ
ボタッ
ホレ
ハグハグ
やーい食いたかったらついて来な
ドスドス
ニコッ


ドッ
おーほいほい
ガッ
うっ
デッ
キャーッ
こら
ナナオ
にっちゃ
にっちゃ
オレにも
食わせっ
あーあ
みんな食っちまって
あれ


ごろ
フガ
フガ
あ〜あ
マタタビでラリってきたぞ
てめえフガついてんじゃねーよ
コラ御柱様に無礼だぞ丁寧にせよっ
こっちは紅マグロがかかってんのよっ
こーなったら
葉っぱを集めて…


ホーラ おいしい タコだよォ
ンゴウ
凄い ナナオを あやつってる
よーし その調子だ
紅マグロ がんばーれ ナナオ がんばーれ
おっ なんだ あれは!?
あれが 葉ノ宮です


いえ〜〜っ
紅マグロ――ッ
わーっ
おおっ
やった
到着の
合図を
ドドッ
御柱様が
葉ノ宮に
入られたぞ
やった
今年は豊作だ
ヒデヨシ様
よくやって
くれた
なんの!!
パン
しかし
でっかい
葉っぱだな
モンワラ草だす
んっ
あれ


もっちゃ
もっちゃ
らっ
なにやってんだ ナナオッ
ナナオ様はモンワラの葉のスベスベ感がお好きでありまする
もっちゃ
う



なんだ あれは⁉
触れて みなされ
あっ
…なんて…
ああ
なんだろう この心地…
ん〜〜〜っ
これは‼
にゃあ


生まれた頃の
気持ち良さ
もっちゃ
もっちゃ

第五話　春(ハル)ノ波(ハ)





ああ
なんだかウキウキしますねえ
サコ
サコ
春になると
どうしてウキウキするんでしょう
冬のせいですか
たしかにそれもありますが
なにか
もっと他の理由があるような…
やっぱり冬があって
きびしい寒さを越えてきたからじゃないか
ぴん


んっ
ケポ松どうした?
サコ サコ
なにか持ってます
ぼんやり光ってますね
なんかの固まりですな
かすかに不思議な匂いが…
親方の嗅覚は鋭いですからねえ
ムッ



きっ
来たーっ
2日後
というわけで
親方は部屋にこもりっきりなんです
なんと
そんなにいー匂いなのかい
オイラには判らなかったけど
不思議な匂いらしいです
おっ
ふっふっ
降ってくる



ホーラ
またまた
降って来た
なにやってんだ？
作曲ですよ
おおっ
完成
はふう
これが
創作の源か


なんだ それ？
判らん なんの固まり なんだ？
なにはともあれ 新曲が出来て 助かりました
そーか もうすぐ 春の発表会 だもんね
5日後
ドン
ド
午後 1時から でーす
唐あげ丸の 新作だよーっ
おっ ドラネコ団
発表会に 行くぞーっ
唐あげ親父の曲は すんごいからなあ
ごつ
最後が かっこいいんだ


ツメ
ザワ
ザワ
え〜っ 森のみなさん こんにちは
唐あげ丸氏の 春先演奏会を 始めます
それでは まず 友情出演の トンダ丸さん
どぞっ
トンダ丸？
はーい
お待ち かねーっ



ヒデヨシじゃ ねーか
聞いて下さい 「マグロはみんな オレのもの」
ブゲーッ
ゲグェー
グゲ
エ
ゲ
やめろ コノヤロッ
引っこめっ 森の恥
帰れっ
音楽を なんだと 思ってる
その罵声 燃えるぜ
引っこめーっ
受けすぎ たわん
おつかれ
さーみなさん 盛り上がったとこで
唐あげ丸です


新作「五角形の風」です
んっ
うっ
なんだこれ
変な旋律だねえ
唐あげ丸さんらしくないな
どうしたんだろう
この新曲はハズレだな
ごう
おんや受けてませんな


蝶が
群れて来た
どうなってるの？


あの旋律で集まって来たんだ
あの蝶なんだろう変な型してるね
これ銀河蝶じゃないか
銀河蝶って採集マニアでも見つけられない幻の蝶だろう
ああホラ前翅の先が星型で輝いてる
ホントだ
「人や猫の気配を察知する能力があり目撃不可能なり」とあったのに…
あの旋律のせいか



まるで蝶使いだっ
ごーっ
すげーっ
ツメ
すばらしい
チ
チ
なっ
なんですかこの蝶どもは
アンタが集めたんでしょ
食ってもんまくないぞ
ケダモノ
おっ
おお


この並び…
えっ
蝶が旋律を？
ヒデ丸
採譜するぞ
へいっ
親方
おおっ
なんて
新鮮な
旋律
オーーイ
唐あげ親父
どこ行ったん
だーっ


バサ
バササ
バササ
にゃ
銀河蝶ってここから?
ああ…銀河の型だ
あの中心になにかあるのか?


こんなに集まってるってことはよォ
あそこになんかうまいものがあるんじゃないのォ
またそんなこと
ヒデヨシ変な妄想するんじゃないよ
貴重な蝶の生態なんだ静かに見てろ
そんなこと言ってから
蝶にみーんな食われるのさっ
やめろコラ
どりゃ
あ〜〜〜っ
んっ

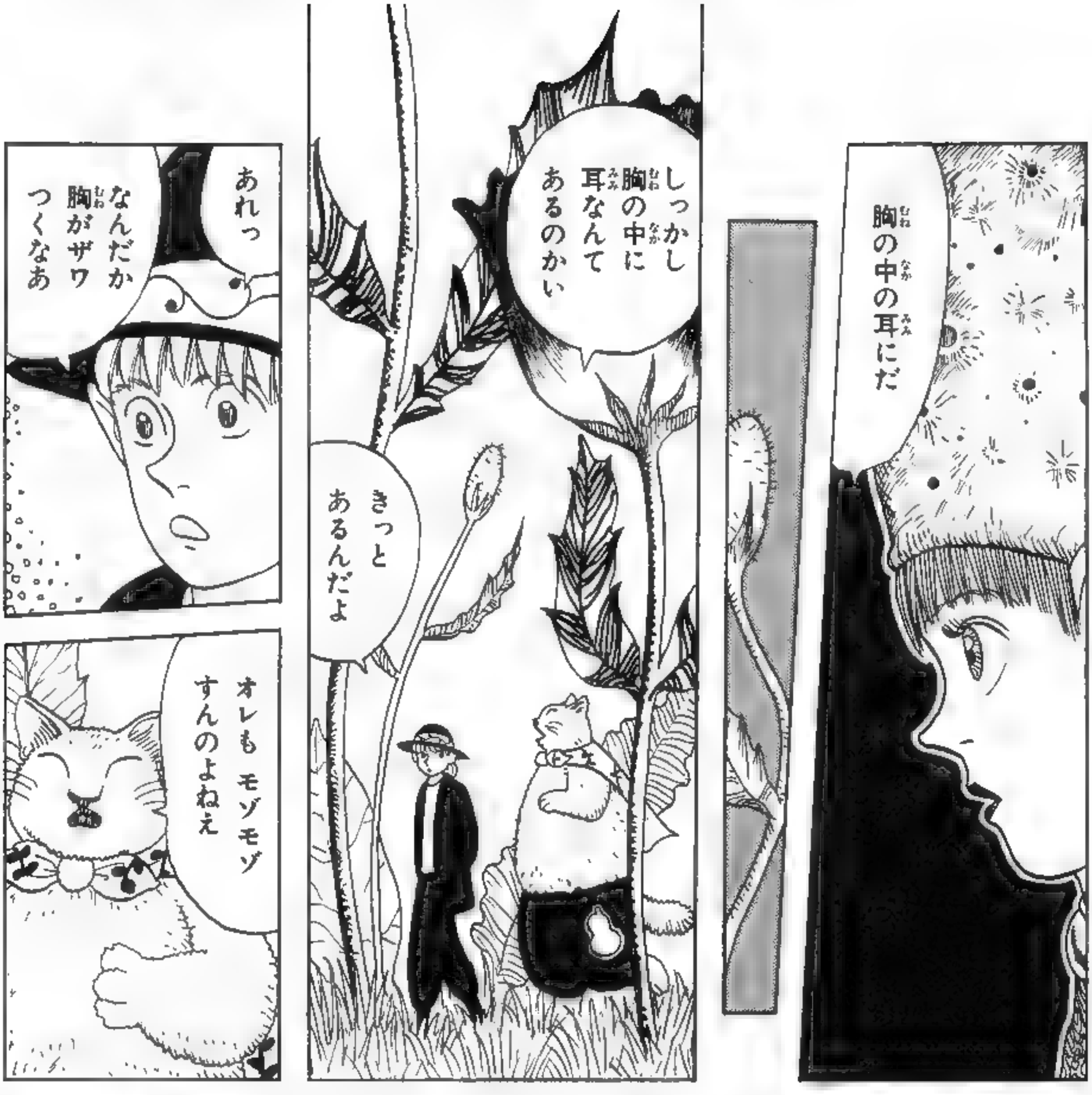

なんだーっ
これは？
食いものなんかじゃ
ないだろう
この匂い
ケポ松が
拾った固まり
ですよっ
えっ
これは
蝶の
鱗粉が
固まった
ものだな
鱗粉？
翅についてる
ヌルッとする粉さ



ホラ
帽子だよ似合う?
なんかバカっぽいですねえ
らっ
なんか聞こえるぞ
聞こえる?
ホントだ
なにか聞こえる
なんの音だ?
さーさー


ひとかぶり
3銅貨だよ
せこいこと
言うんじゃ
ないよ
ごっ
聞こえるよ
なんだか
どうも…
胸がジンワリ
するんだよ
テンプラもか
オレも
胸が妙な
感じなんだ
私も
なんです
その変なもの
かぶったせいじゃ
ないでしょうか
ちは


ツキミ姫
いい所に
来たっ
ちょっと
かぶってみて
なんだい
これ?
蝶の鱗粉の
固まりだよ
なんか聞こえるぞ
なんだか
判りますか?
信号…
みたいだ
信号
でもこれ
耳に聞こえ
てるんじゃない


胸の中の耳にだ
しっかし胸の中に耳なんてあるのかい
きっとあるんだよ
あれっ なんだか胸がザワつくなあ
オレも モゾモゾすんのよねえ
あっ
ら
これだっ!! 胸の耳に聞こえていたのはっ


うっ
んわっ
らっ
いい感じ
あっ
なんて強烈な

春の引力




そうか
蝶々は聞いてるんだ


草花のおしゃべり


第六話　チョウマ戦記①


受ケトッテクレ
！
どうしたギルバルス
妙な声がした
声？


そういえば変な匂いが
あれ…この匂いは
ガサッ
ヒデヨシだ
ぐー ぐーっ
やっぱり…
ヒデヨシ!!
これがアタゴオルの
ああっ 酔っぱらってこんな所まで流れてきたんだな
…んっ
あーら ギルバルス


いつ来たのよ〜っ
おまえここはアタゴオルじゃないぞ
にゃ？
そ〜いえばアンタ誰？
オレはヤッキだよろしく
おうヒデヨシだよーっ
うめーっ
親父おかわりーっ
えっまだ食うの？
ところでオレ金ないからよ
あとで食い逃げするけど


ヤッキはどーすんだい？
おまえーっ
金無しで食ってるのかよ
そんなとこだろう
オレが払ってやるよ
うへへ
ギルちゃん好きよっ
受ケトッテクレ
うっ
またあの声だ
えっ
声なんて聞こえないぜ
もしや…「受けとってくれ」ですかい？


親父さんにも聞こえたのか？
いや
ワシなんかにゃ聞こえんよ
お主…相当の使い手じゃな
どういうことだ？
この北の方にススカケという森があるがそこに入って出てきた者はいないんじゃ
声はススカケの中から聞こえるらしいが
強者にしか聞こえないという
妙な話だな
にゃん


オレにも聞こえたわよっ
なんて聞こえたんだ？
まぐ
まぐ
「ヒデヨシ様 助けて下さい ごほうび たっぷりよ」
よーし その森はどこにあるんだあ
アンタ 本気で行くのかい？
オウッ
そーして森から初めて帰ってきた男になるのすああ
おまえ だいたい丸腰じゃねえか
どうしても行くなら武器貸してやるぜ
すんげえ
オレの趣味は武器集めなのさ


いよーーし
こんな感じでいいかしらっ
頭に爆烈棒（ダイナマイト）腰には爆雷
おまえを撃ったら大爆発だな
このタコ型連発銃気に入ったのよ
さーっ森に行くぜっ
ギルバルスどうするんだ?
よし声の主に会いに行こう
何を受けとってほしいのか?
にゃっ


ここがススカケ森か
見るからに植性の悪そうな木々が
(立入禁止)
オオッ…待ッテイル
フサワシキ者ヨ
くっ
なんだこの気色の悪い気配は
シュッ


ぷはあ
しんぴれる〜〜〜っ
うっ
臭いっ
おまえなんでこんな所でクサヤの葉巻なんか吸うんだよっ
そろそろ心の準備なのすあぁ
本当に激臭だな
お待ちかねの奴もタマランだろう
ホラ
にゃっ
お待ちかねの奴？


ケケ
ナンテ臭イ奴
腐った精の化け物かよ
ダマレ 異臭ノ固マリメ
つんつ頭巾様 御命令ダ

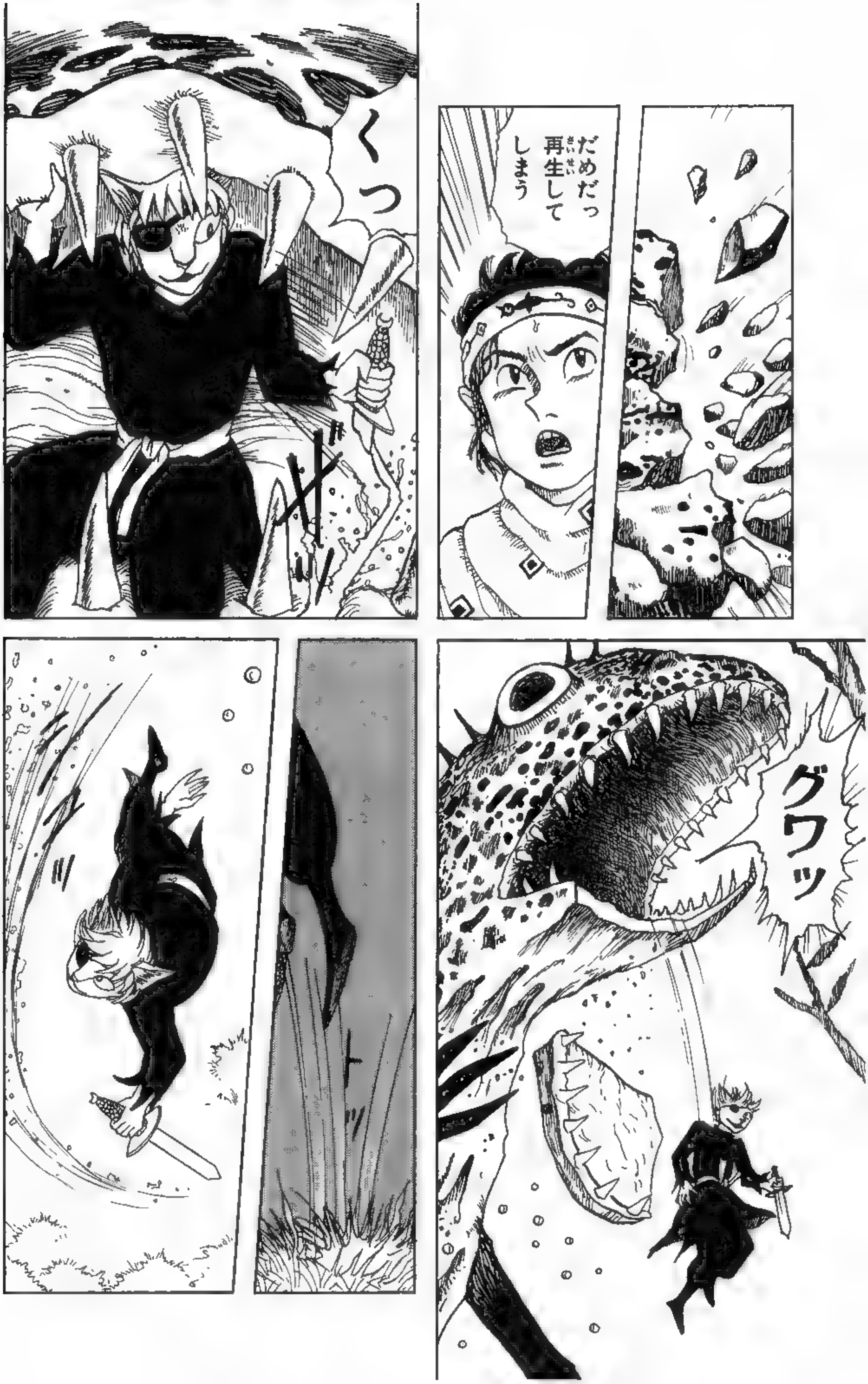

臭い猫と小僧はどうでもいい
その片目の男
ギルバルスをつぶせ
なにっ
おまえ オレを知っているのか
ギレスラ・ベシュレウソラフセ
!
つぶせ
ジエッ


ハッ
グワッ
ドスッ
強い
やるなっ



ケッ
次はおまえか
おれタチヲ
ナニモ判ッテイナイ
ド
!
うっ
キャッ


ギルバルス
キャーッ
このやろう
ドウ
シルルル


だめだっ
再生してしまう
くっ
グワッ


ギェッ
ドッ
わっ
ダメだっ
こいつ…どうなってるんだっ
んもくっ なんて シブトイ のよう
ジジッ
セミ?
うっ
ジジジ
ヒデヨシ なにやってんだーっ


蝉が鳴いてるな
ジジ
点いてんだよ
火…点いてたのか
バカヤロ
ドホ
死ぬとこだったわ
おっ



グワワ
苦しんでるぞ
ウグ
グク
あいつも様子が変だぞ
フーム
!
これかっ
くっ


ドドド
根切りだぜっ
ア…
くそ〜〜っ
あのデブ猫が
爆裂棒なんか
使うから!!
どうして おまえは
くたばんないの?
う
でん
誰が
デブ猫
だって?



おまえだよ
わっ
へ
へっ
このやろ
……アア……
強キ者ヨ…
待チカネタ……


今解放してやる
私ハ モウ… 消エカカッテイル
コレヲ…
確かに受けとった
なんだっ あのドングリみたいなの？
判らん
コレデ冥レル…



さんざん戦って
ドングリ1つ
かよ――っ
ただの
ドングリじゃ
ないみたい
だぜ
さて
なにが
出るかな
んっ
「選ばれし者…」
!
なんだ


オレが樹冠王に…

第七話　チョウマ戦記②




樹冠王!?
うっ
光が伝播していく


にゃ
フワッ
お
なんだ これ
フワフワしてる
うう
も〜〜っ
ずるいぞ
ギルバルス
ずるい？
なんで
ギルバルスが
王様に
なるんだよォ


フッ
勝手に選ばれて…
オレが王なんぞに成ると思うのかい？
カチッ
あっ輝きが
偉いぞギルバルス
そーなのよっ流れ者のギルバルスに王様は似合わないぜ
似合うのは私ですっ


ホラホラ ちょっと貸して
んっ
んぐぐ
うりゃ
ら
まっ白だ
おっ
来ましたよ
ねえ なんて書いてるの？
「愚か者よ チョウマに触れるな」


ぬあんだとォ
この腐れドングリめっ
いらねっ こんなもん
チョウマっていうのか
ギルバルス このフワフワ地図みたいだぞ
フーム…
どうも面白そうな地図だな



樹冠王の大切ななにかが示されているようだ
オレもそう思う
にゃん
にゃ〜〜〜
なに泣いてんだ？
よくやったギルバルス
樹冠王にお成んなさい 王はアンタのものよっ
そのかわり王様の宝はみーんなオレのもの
王様の宝？


その線もあるな
よーし 行こうぜ 宝探しっ
おっし
鮮度の良い ギムラン木の 樹液は…格別だ
ちゅ
ああせム様
せっかく おこしの時に…
ツンツ どうか したのか


チョウマが奪われました
なんだと!!
奪われた!?
ついに
スズリナ翁のしぶとい念も終焉したのか
チョウマを奪った者とはどんな奴だっ
ギルバルスという男です
!
その名前…どこかで聞いたな


ペンドアラの赤色水晶谷でジッパ鉱山を破壊し奴が岩に刻んだ言葉
「ギレスラ・ペシュレウゾラブセ」
「腐ッタ規律ハ噛ミ切レバヨイ」
奴はペンドアラ王国の一級お尋ね者です
チョウマを手に入れただけあるな
ツンツ そのギルバルスとやらの顔おがめるか？
もちろんでございます
しばしお待ちを


ソウムシで
行きまする
……
ブーン
う〜〜っ
ペタッ
腹へったな〜〜っ
なんか食いて〜〜っ


しかし
ギルバルスが倒した木の化け物も凄かったが
頭巾かぶった奴も妙だったな
ああ
ポン
オレにゲロぶっかけた
ゲロ頭巾だろ
みっともない顔しちゃってさー
くっ
許せんこのド肥満猫
それでギルバルス
この河を下ってどこをめざすのさ
とりあえずガンペリウだな
ほう…こやつが
樹冠王に選ばれし者…
しっかしジュカン王の宝物ってなんだろな


宝物!?
ああ
なにが待っているかお楽しみだせ
しっかし腹へり
んっ
あらまゾウムシちゃんこんにちは
ああコイツ
なにやってんだヒデヨシ
いいっ
ゾウムシなんか食ってんまいのかっ
この苦味がすんびれるのすあ
ガリ



バリバリ
ケダモノめ
こんな奴がギルバルスの仲間なのか
まったく畜生猫ですせ
次の虫を行かせます
もうよい
また食われるだけだ
奴らはガンペリウに向かう
そこで待ちぶせして捕獲する
私が行きましょう
え〜〜っキュパ姫様があ
ツンツ
なんだ その「え〜っ」は!!


父上
よいですね
…うむ
銀カジキ隊と行け
……なるべく
穏便にな
それは
ギルバルス
次第で
ございます
2日後
いえ〜っ
ガンベリウに
着いたわよっ
2日間
くだものばっかり
飯食うぞォ
飯食うのは
時間がかかり
そうだな
ああ


ハーイ
ケケ
ゲロ頭巾
らっ
ゲロ頭巾だとォ 貴様〜っ
脳ミソもゲロで出来てるのかしら
全員 あのデブ猫を狙えっ
ええっ そんなあ


ドッ
ドッ
ガッ
ガッ
ひえっ
なんでオレなんだっ
ギルバルス狙えよっ
やかましい貴様だけは
ハッ


すんげえ
ドコッ
ド
ド
答えろ
ひっ
トッ
オレを狙えと命じた奴は？
ハハハイ…それはヒンフル樹国王…ゼム様であります
ではチョウマとはなんなんだ？


あれは
スズリナ翁が
作ったもので
その能力を
知っているのは
翁だけです
ほう
それでその
スズリナ翁は
どこにいる？
ひっ姫様
お許しを
姫様？
ツンツ頭巾
ベラベラと
しゃべるんじゃ
ありません


いかにもキュパ姫です
おまえがギルバルスか
ああ
お姫様がお出ましとは…なんの御用で?
おまえを捕獲して
チョウマをいただきます
捕獲ってオレはケモノじゃないんだぜ
捕獲開始


しょうがない姫様だな
お城に帰った方がいいよ
ト
キュパ様 気をつけて ギルバルスはすばしっこいですよ
うーっ 死ぬかと思ったゲロ頭巾めっ
ヤッキどうした?
ギルバルスがキュパ姫と戦ってる
キュパ姫?
リーン
リーン
ズァッ


リーン
へっ
幻術か
リーン
こんなものが
オレに通じると思うのかい
どうした?


体が
動かない
頭の中に
なにかが
入ってくる
これは
幻覚なんかじゃ
ありません
私が作った
本当の花
にゃあっ
ギルバルス
眠りの沼に…
どんなに
技をみがいた
剣士でも


私の花には勝てぬ

第八話　チョウマ戦記③




ギルバルスもこの程度か
ぐりぐり
いや〜っキュパ様お強い
あーっ
ギルバルスがやられた
うっ
フラッ
らっ
ヤッキもかよ


そこの肥満猫
なに?
おまえ眠くないのか
えーえーっデブだから眠くないのよ〜〜〜っ
見えない花粉が流れているのに…
なぜコイツには効かないのだ?
かわいげのない奴
名はなんという?
ギルバルスの命の恩猫
ナゾノ・ヒデヨシだぜっ


こやつの命の恩猫？
オレ アタゴオルに住んでるんだけど
ギルバルスが時々どっかから逃げて来てよっ
何日も飯食ってないから オレがおごってやるわけ
ギルバルスがガツガツ食いながら
「おまえは命の恩猫だあ」って泣くんだよーっ
おまえ…ウソが全身につまった
虚言癖の男だな
キョゲンヘキって なんか誉めてるみたいだけど ダメよ
ギルバルス 踏んづけ代として紅マグロ2本払いなさい



ギルバルス 踏んづけ代？
おう
払わないと タコ墨弾 食らわすぞ
撃ちたきゃ 撃ちなさい
姫様
そのバカ 本当に 撃ちますよっ
当然
ふっ
バシッ
ありゃ


ヒデヨシ
下がりなさい
キャーーッ
らっ
くっ
いい気味
さて…
チョウマを
いただこうか
!


ん
パチ
わわっ動き出した
ジー
きゅぱ姫 スミヤカニ 10歩後退 シナサイ
え?
貴様 木っ端兵の ぶんざいでっ 姫様に向かって なにを言うかっ


首を落とされて
回路が狂ったのか
狂ッテハイナイ
ソコニ
横タワル方コソ
我ラノ王ナリ
ギルバルスが
おまえたちの王!?
イカニモ
くっすおう
キュパ姫めっ
も〜〜っ
許さないわよォ
タコ墨弾より
強烈な
恐ろしい弾
ぶち込んでやる
オマエノ命令ハ
キカナイ
ぎるばるす様コソ
真ノ王ナリ
なにを
言ってるんだ


おんや?
仲間割れですかー
ゲッ もどってきやがった
デブ猫には用はない すっこんでろっ
食らえっ 折檻弾
ドンッ
ビチャッ
うっ
くっ
臭いっ
うっ


なんなのっ
この臭気
クサヤの原液だよーん
ツンツンするべ
うあああっ
チカチカ目にしみるっ
キュパちゃんも浴びなさーい
くっ
ビチャッ
水平撃ちが効かないなら


乱れ撃ちっ
ドン
ドン
ベチャッ
嫌〜〜〜っ
大当たりーっ


ヒテヨシ
にゃん？
絶対 許しません
覚えてなさいっ
おほほっ
臭っさい
お姫様
まったね〜〜〜
ううっ
臭い
ああ
姫様っ
ガサガサ
待って
下さーい
よっ


ホレホレ 起きろよ ギルバルス
コラ でぶ猫
うっ
ぎるばるす様ニ 乱暴スルナ
なに 言ってんだ おまえたち ゲロ頭巾を 裏切ったのかよ
裏切ッタノデハ アリマセン 絶対的ナ 王ガ出現 シタノダ
…どうしたんだ こいつら?
オオッ ぎるばるす様


貴方コソ我ラノ王
ぎるばるす王ハ偉大ニシテ
絶大ナリ
オレがおまえたちの王だと!?
私ノ頭脳回路ノ決定城ニ貴方ノ姿ガくっきリト
あれ……いったいどうなってんだ?キュパ姫はどうした?
オレがクサヤ液弾をぶっ込んだら泣いて帰ってったのさーっ
クサヤ液弾!!
ギーッ
んっ



アンタら凄いな
ゼム王の軍隊やっつけて
キュパ姫を追い返すなんて
クサヤ液弾は偉大なり
オレの宿に来なよ タダで泊めてやるぜ
にゃん
ドウシテモだめデスカ?
ああ
オレは王ではないしおまえたちを家来にはしない
何故そんなにギルバルスに仕えたいんだい?
ソレハ


頭脳回路ノ
ぜむ国王ガ
イタ場所ニ
ぎるばるす様ガ
突然現レタ
ノデス
ちょっと〜っ
ギルバルス
寝たフリして
なにかやってたん
じゃねえのォ?
なに言ってんだ オレは
あの花のせいで
眠っていただけさ
オラは
2階の窓から
見てただよ
見てた?
ああ
キュパ姫が
ギルバルスの体から
なにかを取ろうと
した瞬間
ギルバルスの胸が
輝き出してよ
その輝きが
ちらばって
木っ端兵士の首に
輝きが移っていったと
思ったら…兵士が
動き出したんだ
胸の輝きが
兵士を!?
輝キガ
信号トナリ
言葉ニナッテ
響イタ


「オレは密林の王なり」
「オレに連なれ」
やっぱりな
欲望とは恐ろしいもんだなギルバルス
なんだと
口じゃあ「王様にはならない」と言いながらおまえの心は叫んでるのさ
「オレは密林の王様だー」ってな
そんなことはありえない
王とか先生とかそんな安っぽいイスにオレを座らせるなよ
まあイスって言ったらイスみたいなもんだがよ
王様っていうイスは楽なもんだぞ!
んまいもの腹いっぱい食って毎日踊って暮らせるんだぜ


それって おまえの生活 じゃないか
おまえは 十分に 王様だぜ
あら そーかしら
まーまー ギルバルスも こんなに木っ端兵が お願いしてるんだから
なにか命令しちゃえば？
ソウデス ぎるばるす様 御命令ヲ 賜リタイデス
…ようし 判った
木っ端兵士諸君に ギルバルスより 命令する
これからは誰の 命令も受けず
君たちは 自由に 行動せよ
自由ニ行動？
自由？
自由ッテ ナンダ？



自由トイウ言語ハ
私ノ言語記録ニ入ッテナイ
自由トハナンソヤ？
自由とはコイツだ
にゃん
コイツは誰の命令も聞かないし
まったく自由気ままに生きている
この男を観察して
自由に生きることを見出せ
おほほほ
オレこそ
自由──っ
肥満猫様ヨロシク
ヒデヨシであるぞ


ただし この男
無銭飲食や 魚の万引き など行うので
それは マネしないように
万引キヤ 無銭飲食ハ
犯罪デスヨ
ぺん
うるせーっ
う〜っ 説教されたら マタタビ麦酒 飲みたくなった
この先に 飲み屋があるよ
ふーっ これ重いのよね
ドフッ
あ〜っ楽だ楽だ
おいヒデヨシ タコ型銃 こんな所に 置いとくと


脱水状態に
なって
弾が出なく
なるぞ
ヤッキ君
水やり
よろしく
コラ
おまえの
銃だろっ
ザ
ザ
ありゃ
ついて
来ますな
ン
んっ
んっ
ン
うんめ〜〜〜っ
ウーヒ



樹液トハ違ウガしびれマスナ
ところでアンタたちお金は持ってるのか
オ金？
え～～っ…金無しかあ
ちょいとお客さん
物騒なこと言わんでくだせえよ
こりゃあ集団で飲み逃げだな
オ金…？
パコッ
これカ？
にゃあ
銀貨だっ



親父(おやじ)おかわりーっ
親父(おやじ)オカワリーッ
しかし うちの自由(じゆう) 帰(かえ)って来(こ)ないな
自分(じぶん)の銃(じゅう)も ぶんなげたまま
んっ
帰(かえ)って 来(き)た
あれ……
これは 自由(じゆう)というより


ブベーッ
無軌道生物(むきどうせいぶつ)
ブフェーッ

ますむら・ひろし先生の最新情報は公式サイト

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など
楽しみがいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波16

ますむら・ひろし

一九五二年生まれの僕が、初めて読んだ漫画は何だったのだろうと、思い出そうとしても、コレだとハッキリ浮かぶものはないが、それでも記憶の奥のところに強く印象に残っているものがある。それは親戚の骨董屋さんにあった表紙の厚い単行本で、狸がたくさん出てきて、そいつらが凶暴で暴れるのだが、狸が「おでん」を食べるのだ。それは杉浦茂さんの『八百八狸』という作品だった。なにしろこの狸たちが薄気味悪かった。変に強くて怖かったのだろう。数年前にこの復刻本が出たので買って、ページをめくると、どこか懐かしいような場面がアチコチにある。まるで子供のころに行った町に、もう一度出かけて行ったような気分だ。この杉浦狸に出会ったのは小学校の二年生くらいだったろうか。そのころはまだ漫画の週刊誌がなくて月刊誌の時代だった。

僕は『少年』を定期購読していた。毎月発売日が近づいてくるとソワソワする。やがて本屋さんから配達されてくるのだが、その本のぶ厚いこと。本誌の間に小雑誌が何冊が入っていて、他に挟まれているグッズには、いろんな仕掛けのあるものがあった。『飛び出す戦艦大和』とかあって、赤と青のセロファンの付いた眼鏡をかけて、本誌の大和の図を見ると、大砲がドーンと立体的に飛び出して見えるのだ。こうした付録を挟んだ厚いふくらみが、一段と興奮させるのだが、肝心のお目当ては連載漫画であり、まさにムサボルように読む。『鉄人28号』『鉄腕アトム』『ストップ！にいちゃん』。だが一気に読んでしまい、すくった水がスーッと無くなってしまったあとのように、読み終えたあとの寂しさ。満足気分で終わるときもあるが、続きものの途中で終わったりしたときの興奮は、どうすればいいのかわからず、放り出され、ああ、また一カ月待つのか、とまるで飢えた子供のように、モンモンとするのだった。月に一度しか会えない物語の世界が、どれほどの楽しみだったか。あんな風にしてガキドモは、たくさんの漫画家から喜びを与えられていたのだ。やがて週刊誌の時代がくると、一カ月間も待つ飢餓感は、七日間に圧縮されて、ますます漫画へのめりこむ小学生になったのだった。

さてさて、今年の夏の暑さは、ただごとではない。その暑さのせいで台風すら日本に近づけないようで、発生のパワーも落ちているみたいだ。台風というと、子供時代、これがウラヤマシカッタのだ。何が羨ましいかというと、「台風が来ること」が羨ましいのだ。僕の住んでいた米沢市は、東北地方であり、台風がほとんど来ない。というか、台風が通過する頃には、ほとんどパワーが無くなっていて、温帯低気圧とかに成り下がり、なんとも迫力がないのだ。それでもたまに米沢の上空を通過していくと、空の雲も重苦しく雨も多少降っていく。それを見ながら、恨めしげに「あー、もっとデッカイ台風来ないかなー」と言ってると、「ヒロシ、馬鹿なごど言ってんなず」とマツノ婆さんから、ゴシャガレル(叱られる)のだった。台風が近づくニュースがあると、みんなが窓枠に木打ちつけたり、土のうを積んだりしている風景が映り、それがもうワクワクさせるのだ。台風はたぶん透明なゴジラみたいなものであり、そいつが暴れることで家が壊されたり堤防が決壊したりして、町や家がメチャメチャになることが、子供の僕には非日常的で、実に見てみたい風景だったのだ。それでは、今回収録の作品の裏話を少々。

『緑ノ視線』。表紙絵は、ブエナ・ビスタのライブ盤ジャケットから想像されたもので、ヨネザアド大陸のどこぞの都という感じです。秋になると我が家の庭の木々も葉を落とすのだが、近所は宅地化されて、木の生えている庭の家がほとんどない。そうなると、落ち葉はお互い様ではなく、我が家一軒だけがばら撒くことになり、まるでゴミのよう





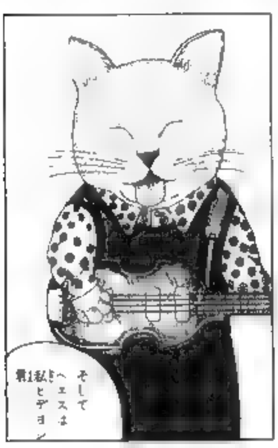
になってしまう。僕は落ち葉が散らばっている道路は、風情があって好きだが、御近所にとっては、ただのゴミかもしれない。そんなわけで落葉の季節になると、家人は毎日せっせと箒で路上を掃きまわることになる。「一年で一番楽しかったこと」、そうしたことを自分の周りの自然が見ている。人間からだけではなく、自然からの視線。何遍もこのテーマで描いたのに、しぶとく脳内で起こる噴火のような、ワタクシの胸の症状なり。





『取りたて戦記』。私が熱烈なるビートルズ・マニアであることは、何度も語ってきたことだが、ビートルズ・マニア本の制作編集者より、文章原稿の依頼が来た。ううう、嬉しい。そして、なんとも誉れな気持ち。中学校時代の私や高校時代の私が今ココにいたら、どんなに感動するだろう。そして本ができた。私の文章は四ページに渡り、しかも絵も載っている。『ガロ』の『再会』のページにいるジョン・ジョージ・リンゴとヒデヨシのポール、斜平山を背景に「ろんがんわいでんろー」を歌うヒデヨシ、そして『マンガ少年』誌の『影切り森の銀ハープ』のラスト・シーンのヒデヨシが歌う「いふにーさんばでつらー」。これらが掲載された本『THE DIG ザ・ビートルズ アナログ・エディション』(シンコーミュージック・エンタテイメント刊)が発売されて送られてきた。おー嬉しい、







きゃー光栄なりと喜んだ時期にしめきりが来たので、超お祝いということで、この本の表紙絵をモデルにして、四人を四匹にしたのでした。しかしこうしてみると、驚くべきことがある。それは、ビートルズの面子をアタゴオルの猫化する場合、今ではヒデヨシは、必ずジョン・レノンに化けるのだが、最初の猫化のとき、それはヒデヨシがポールをやっていたということだ。まあ「ろんがんわいでんろー」をマンガの中で歌いたかったとしても、というか、今なら多分、ポールの歌を歌わず　ジョンの歌であの山を降りてきただろう。今ジンワリと気づくことは、私の中の「ジョンとポール」への想いが、これを描いた二十歳の頃には、「どっちも、好きだった」ということだ。まあ、それはさておき、ビートルズ・マニア本掲載の喜びとして、その本の表紙絵の四人をアタゴオル化したのでしたが、ブチ丸のポール、カツラのリンゴ、唐あげ丸のジョージ、ヒデヨシのジョン。一応ヒデヨシがジョンぽく笑っています。



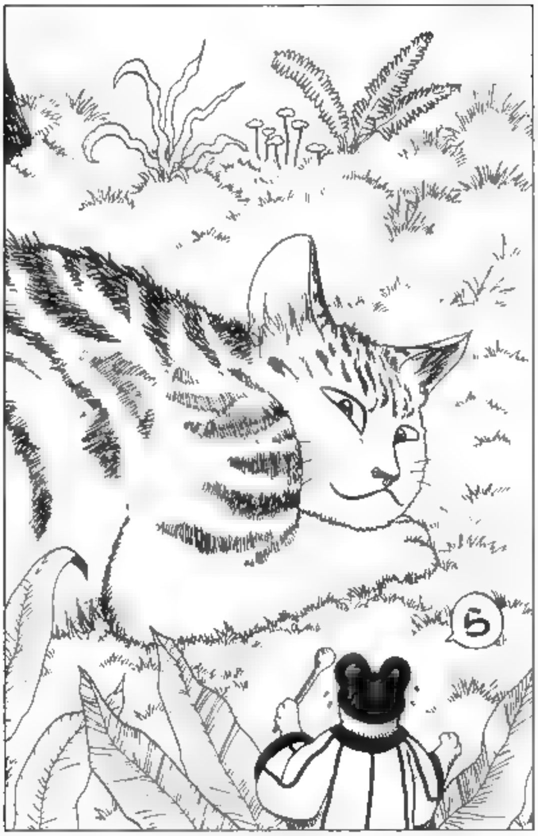
さて物語は年末恒例の借金取り軍団ガッポリ商会対ヒデヨシの顛末。ところでこの二〇〇九年は大河ドラマで故郷・米沢が舞台となっていた。上杉景勝公の家臣、直江兼続の物語。彼がかぶっていた兜の「愛」の文字のデザインは、一気に有名になり、



今や日本中の路地裏のスナックの看板になっている。ということでヒデヨシは、アタゴオル文字で「愛」をかぶり、胸には真田幸村の六文銭をイメージしてハート印を並べてみた。雪で作ったお城といえば、札幌の雪祭りを想いだすが、実際に野原にこのくらい巨大な雪の城なんか作ったら、相当感動すると思うし、城取りゲームを子供たちと雪合戦でやったら、楽しいだろうなあ。



『NANAO』。人間よりも大きい、象みたいな巨大猫。実際にそんな奴が居たら、相当怖い。猫が普段鼠やトカゲなんかにしている、軽く噛んで遊ぶような行為を、人間にもしてくるし、じゃれて、あの爪のある手でいいようにされるのを想像すると、恐ろしい。普段は、僕の布団で飼い猫の鈴尾くんやモミちゃんが寝たりするのだが、その大きさが逆転して、巨大な猫のそばで寝る風景は、これまた不思議な気分だろう。この作品を描くあたりで、七年に一度行われる諏訪の御柱祭があり、それを見ているうち、柱が巨大な猫になった感じもする。



『春ノ波』。春が来ると感じるワクワクした気持ち。あれは経験的なものなのか、それとも本能的なものなのか。ホワンとした春の暖かさの中で　蝶の独特のヒラヒラした飛び方を見ていると、引力から開放されるような浮遊感を感じる。ヒデヨシとテンプラが春の引力に引っ張られて浮か



んだ後、ヒデヨシは、「そっか、蝶々は聞いているんだ」と思ったあと、めくると「草花のおしゃべり」と言っているが、今こうして再読してこの場面に来てみると、蝶々は「草花のおしゃべり」どころではない「何か」を聞いているような

気がしている。もちろん、それは簡単に言葉にはならないものだが、これこそ、作るということが雲をつかむような感覚のなかに居るということなのだ。

『チョウマ戦記』。ギルバルス、ヤッキ、ゼム国王、キュパ姫、ツンツ頭巾。さてさて「チョウマ」とは何か。樹冠王とは何か。第三回目を描いている月は六月で、南アメリカでのワールド杯サッカー。九四年のアメリカ大会以来、この時期は現地で観戦を繰り返してきたが、なんと二十年ぶりに自宅観戦の日々となり、仕事部屋のテレビに釘付け、



試合に合わせて生活しつつ、漫画を描く一カ月となった。南アフリカではつきものだというブブゼラという楽器。ビニールで作った単純なる筒。これを吹くとブガーと激音が出る。それらが集団で吹きまくる姿は、試合などそっちのけで騒いでいる状態で、まさに全員ヒデヨシみたいな風景。

選手たちは、さぞやりにくかっただろうが、このブブゼラ軍団の馬鹿騒ぎ音は、連日聞かされ、時々発作的に「うるせー、試合のジャマだー」と叫びたくなることしばしばで、うんざりものだった。しかしその衝撃は脳内に住みつき、チョウマ戦記三回目のラストは、「作者が頼みもしないのに」こんな風に騒いでしまう形となった。ああ、まさにこれこそ、作品とは僕の日記の一部ということだと思うが、実にヤカマシく、ムッとさせる終わり方だが、みーんなブブゼラのせいなのだ。そして何より、ブブゼラこそアイツなのだ。では歌います。

「ひーざーりーる・ブブゼラまん。してんいんひず・アタゴオルらんど、めきん食い逃げ・魚どろぼう・飲酒・むけーかく」。

(初出) コミックフラッパー 2010年1月号～2010年8月号

MFコミックス

アタゴオルは猫の森……………16

2010年10月31日 初版第1刷発行

著者……………ますむら·ひろし

発行人……………伊藤 誠

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001(カスタマーサポートセンター)

印刷·製本…………大日本印刷株式会社

落丁本、乱丁本はお取り替えいたします。
本書の内容を無断で複製·複写·放送·データ配信することは、
かたくお断りいたします。
定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-8401-3380-7 C9979




宮沢賢治学会・イーハトーブ賞に輝く
ますむら・ひろしの集大成 全作品収録！
賢治の
足音が、
息吹が聞こえる……
メディアファクトリー刊
MFコミックス
絶賛
発売中
定価各750円(税込)

ますむら・ひろしのファンタジーワールド

MF文庫
『アタゴオル』
全⑩巻+外伝 ①「ギルドマ」 ②「ヨネザアド物語」

定価各620円（ヨネザアド物語のみ650円）

ファンタジーロマンの最高峰、「アタゴオル」。20年以上に及ぶヒデヨシの活躍をまとめてお届けします。



いずれも著者書き下ろしの作品解説付き



MFコミックス・フラッパーシリーズ
『アタゴオルは猫の森』
①〜⑯巻 定価各540円

傍若無人な猫、ヒデヨシとその仲間達がおくる、不思議世界、"アタゴオル"その最新作登場！

※MF文庫「アタゴオル」には収録されていません。



MF文庫
『夢降るラビット・タウン』
全⑤巻 定価各620円

くいしんぼウサギのポンペイ、天文少年の辺太、ゆがんだ性格の骨男・骨平太、通信講座会報誌に掲載された幻の名作です。







※定価はすべて本体+税5%です。